

千葉県 の 港 湾



* 特定重要港湾（千葉港）及び重要港湾（木更津港）の詳細については、次ページからのとおり。

千葉港

●千葉港の概要

特定重要港湾である千葉港は東京湾の湾奥部に位置し、北から市川市、船橋市、習志野市、千葉市、市原市及び袖ヶ浦市までの6市にまたがり、海岸線延長は約133kmに及んでおり、全国一広い約24,800haの港湾区域を有する港です。

また、石油コンビナート、製鉄所、LNG基地などの大規模施設が集積し、取扱貨物は臨海部立地企業の原材料、製品、完成自動車などを主体としており、全国有数の取扱貨物量を誇っています。

平成21年の取扱貨物量のうち92%が企業専用岸壁で取扱われていますが、平成6年に千葉中央地区でコンテナターミナルを供用開始するなど、公共埠頭も重要な役割を果たしています。

●公共主要施設

千葉港の公共岸壁は総延長11,208m、94バース、物揚場等は総延長8,339mあり、市川埠頭、船橋中央埠頭、船橋東埠頭、千葉中央埠頭、出洲埠頭、市原埠頭、袖ヶ浦埠頭等にわかれています。

また、県営上屋15棟、47,210㎡、荷さばき地401,973㎡、野積場379,590㎡が整備されています。

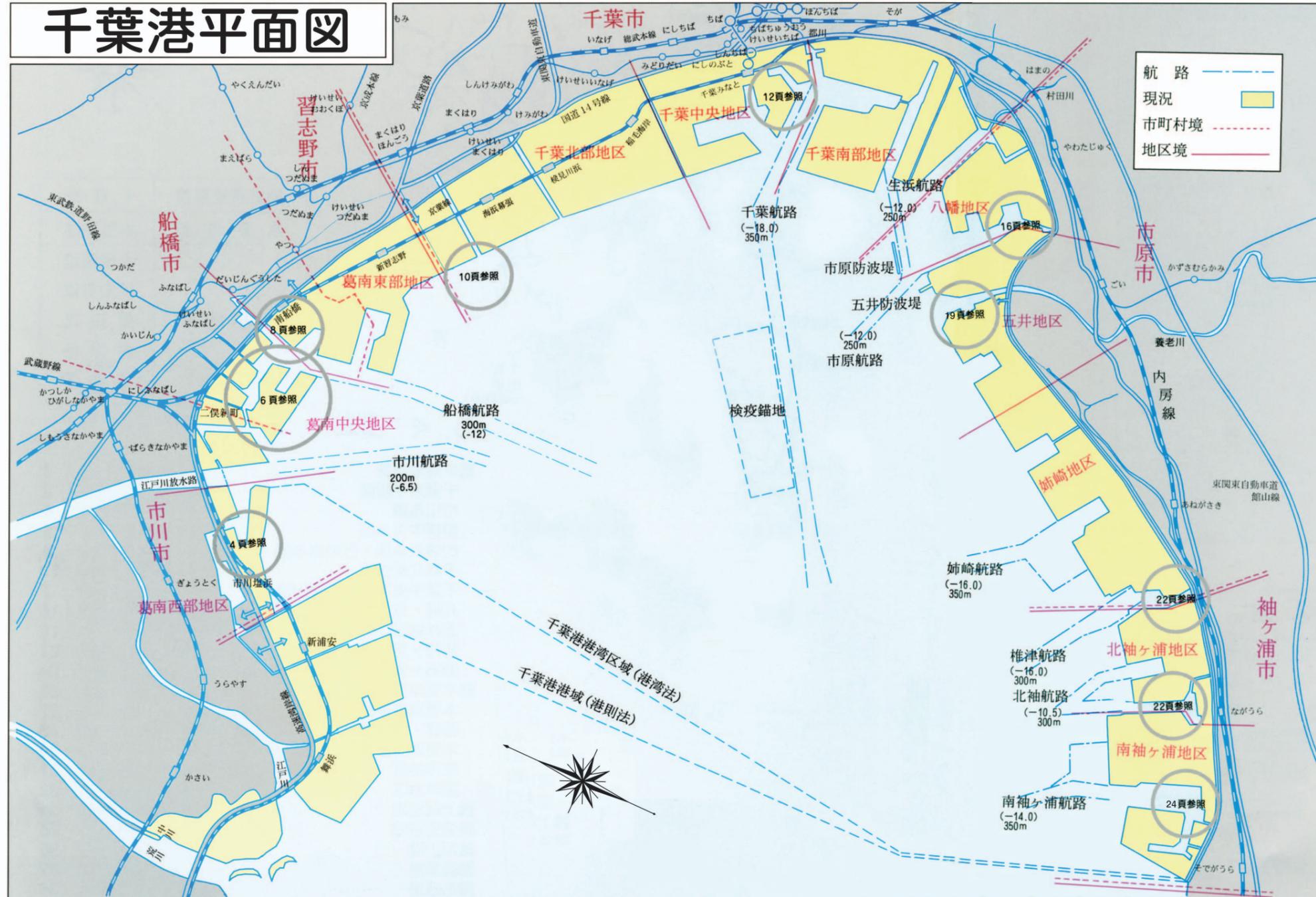
なお、千葉中央埠頭のコンテナターミナルは、現在、-12m岸壁1バース、ガントリークレーン2基により運用されています。



千葉港シンボルマーク

マークの外側のCは千葉の頭文字のCを、地球儀は国際港として飛躍する千葉港のイメージを、中央の船は世界の港との交易を表現しています。昭和57年に千葉港開港記念日を7月1日として定め、これを記念して制定されたものです。

千葉港平面図



●千葉港の沿革

～江戸時代以前～
鎌倉時代

都川河口を寒川港と呼び、原始的舟着場であったと伝えられる。

江戸時代

末期頃から海運業が盛んとなり、薪炭、米穀、葛粉等を江戸・横浜に運び、主に塩を移入した。

～明治・大正・昭和～
明治6年・1873年

千葉県が誕生し、舟運の中心市場町に県庁が置かれ、政治・交通の中心として栄えた。

明治43年・1910年

11万㎡の出洲埋立地が造成され、舟溜りと荷揚場が整備され港として初期の形態が整えられた。

大正11年・1922年

内務省により港湾指定を受ける。

昭和15年・1940年

東京湾臨海工業地帯計画が内務省土木会議で決定され、その一環として、千葉市今井町地先海面300haの埋立を計画し200haを埋立てたが終戦で中止した。

～戦後の復興～

昭和26年・1951年

千葉県土木部千葉港建設事務所（現千葉港湾事務所）を設置。

昭和28年・1953年

千葉港及び船橋港の港湾区域を決定し、千葉県が千葉港及び船橋港の港湾管理者となる。

昭和30年代～40年代

臨海部埋立造成整備、基幹産業を誘致し京葉臨海工業地帯が形成される。

～国際貿易港千葉港の発展～

昭和40年・1965年

特定重要港湾に指定される。

昭和41年・1966年

運輸省第二港湾建設局千葉港工事事務所（現国土交通省関東地方整備局千葉港湾事務所）が設置。

昭和43年・1968年

京葉シーバース竣工。

昭和50年・1975年

千葉県土木部葛南港湾事務所を設置。

昭和51年・1976年

人工海浜「いなげの浜」がオープン。

昭和54年・1980年

人工海浜「幕張の浜」がオープン。

昭和55年・1980年

千葉県がポートランド港（アメリカ・オレゴン州）と姉妹港を提携。

昭和57年・1982年

千葉港開港記念日を「7月1日」と制定。

昭和61年・1986年

千葉ポートタワーが千葉ポートパークに完成し、県民の日にオープン。

昭和63年・1988年

人工海浜「検見川の浜」がオープン。

平成元年・1989年

幕張新都心地区に「幕張メッセ」がオープン。

平成6年・1994年

千葉港中央地区コンテナターミナルが完成し、外貿コンテナ航路が開港。

平成9年・1997年

コンテナターミナル内にガントリークレーン2号機が完成。

平成12年・2000年

港湾情報システム（EDI）化の稼働を開始。

平成16年・2004年

SOLAS保安規定制定・施工。
千葉港開港50周年

●港湾関係日本一

日本一高い歩道橋

木更津港吾妻地区中の島大橋 高さ27.125m（長さ236m、幅4.5m）

日本一長い人工海浜

千葉港 延長約4,920m（稲毛1,200m、検見川1,300m、幕張2,420m）

木更津港

●木更津港の概要

木更津港は東京湾の東岸の南部に位置し、京葉工業地帯の一翼を担う千葉県南部地域の経済社会基盤として重要な役割を果たしてきました。

現在、木更津南部地区、君津地区には、新日本製鐵およびその関連会社が進出しています。

富津地区には東京電力富津火力発電所及び流通加工型工業が立地しています。

公共埠頭としては、木更津南部地区において木更津埠頭が、背後地区で産出する山砂の積出に利用されています。また、外貿機能の強化として2バース目の-12m岸壁240mを平成20年に供用開始したところです。

また、広域的なりサイクル施設の立地に対応した静脈物流ネットワークの拠点となる港湾として、平成15年4月に総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されました。

●公共主要施設

木更津港の公共岸壁は、吾妻地区と木更津南部地区および富津地区に分かれていますが、吾妻地区には水深3.0mの物揚場および棧橋が総延長683mあります。

木更津南部地区には、水深12.0m岸壁500m（2バース）、水深7.5m岸壁260m（2バース）、水深5.5m岸壁360m（4バース）、水深4.5m岸壁240m（4バース）および水深4.0mの物揚場362mがあります。

また富津地区には、水深7.5m岸壁260m（2バース、うち1バースは耐震強化型岸壁）および水深5.5m岸壁360m（4バース）があります。

その他荷さばき地192,410㎡、野積場72,625㎡が利用されています。

●木更津港の沿革

～江戸時代以前～

慶長19年・1614年

大阪の役における勲功によって、徳川氏から江戸府町と木更津間の渡船営業権を与えられた。

～明治・大正・昭和～

明治41年・1908年

木更津町は航路の浚渫と防波堤の築造に着手し明治45年に完成した。

大正元年・1912年

蘇我木更津間に鉄道が開通し、海運は衰退した。

大正15年・1926年

内務省告示で公有水面埋立法に基づく指定港となる。

昭和12年・1937年

昭和9年、港の北側に木更津海軍航空隊の飛行場が建設され、それに伴い工事也大規模になり、航路・泊地・防波堤・護岸の築造が竣工した。

昭和19～28年・

1944～1953年

港内防波堤・棧橋を築造し航路・泊地浚渫等を10ヵ年計画で実施した。

昭和28年・1953年

千葉県が港湾管理者となる。

昭和36年・1961年

君津町地先に新日本製鐵(株)君津製鐵所〔旧八幡製鐵(株)〕が進出した。

昭和43年・1968年

重要港湾に指定される。

昭和47年・1972年

千葉県土木部木更津港湾事務所を設置。

昭和55年・1980年

新港公園が全面供用開始。

平成5年・1993年

潮浜公園が全面供用開始。

平成7年・1995年

富津地区耐震岸壁-7.5m、1バース供用開始。

平成8年・1995年

南部地区岸壁-12m、1バース目を供用開始。

平成9年・1996年

アクアライン開通。

平成15年・2003年

リサイクルポートに指定される。

平成18年・2006年

木更津港湾物流効率化特区の認定。

平成20年・2008年

南部地区岸壁-12m、2バース目を供用開始。



●アクアライン



●海ほたとアクアライン



●中の島大橋

木更津港平面図

